

1. 操業状況

1) 搬入実績 (平成 18 年 10 月 3 日～平成 25 年 12 月末)

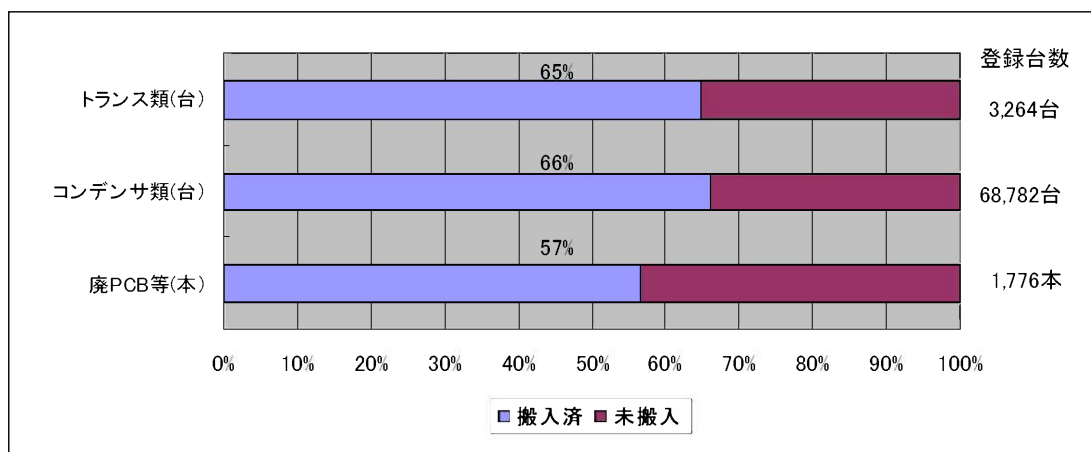
平成 18 年 10 月から平成 25 年 12 月末の PCB 廃棄物搬入実績は、トランス類が 2,114 台、コンデンサ類が 45,435 台、廃 PCB 等が 1,004 本となっています。  
 これは近畿二府四県で登録されている PCB 廃棄物のうち、トランス類では約 65%、コンデンサ類では約 66%、廃 PCB 等では約 57%が搬入されました。

表 1 年度別の搬入実績

種類	平成年度	滋賀県	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	大阪府	*2 大阪市	合計	
トランス類 (台)	18年度	-	-	-	-	-	68	68	68	
	19年度	-	-	-	-	-	332	332	332	
	20年度	-	6	-	-	-	306	257	312	
	21年度	2	8	74	-	6	290	116	380	
	22年度	3	28	99	6	14	252	92	402	
	23年度	1	22	79	48	8	101	77	259	
	24年度	3	19	18	4	25	118	52	187	
	25年度12月迄	3	19	12	30	1	109	60	174	
	合計		12	102	282	88	54	1,576	1,054	2,114
	*3 登録数		17	318	698	106	93	2,032	1,303	3,264
コンデンサ類 (台)	18年度	-	-	-	-	-	2,096	2,096	2,096	
	19年度	-	-	-	-	-	4,575	4,575	4,575	
	20年度	52	87	245	9	-	5,015	2,649	5,408	
	21年度	493	1,014	2,270	254	546	1,831	458	6,408	
	22年度	598	525	2,462	156	563	2,228	566	6,532	
	23年度	655	770	2,377	179	428	1,784	183	6,193	
	24年度	588	1,271	2,546	269	513	2,527	293	7,714	
	25年度12月迄	743	658	2,446	259	306	2,097	456	6,509	
	合計		3,129	4,325	12,346	1,126	2,356	22,153	11,276	45,435
	*3 登録数		4,581	8,762	22,703	2,031	2,882	27,823	12,623	68,782
*1 廃 PCB 等 (本)	18年度	-	-	-	-	-	20	20	20	
	19年度	-	-	-	-	-	69	69	69	
	20年度	-	5	-	-	-	88	82	93	
	21年度	1	5	44	1	-	30	28	81	
	22年度	5	-	21	-	-	57	3	83	
	23年度	2	10	51	-	6	111	46	180	
	24年度	62	10	30	-	3	193	144	298	
	25年度12月迄	41	9	2	-	4	124	57	180	
	合計		111	39	148	1	13	692	449	1,004
	*3 登録数		130	117	418	3	29	1,079	544	1,776

\*1 廃 PCB 等はドラム缶数 \*2 大阪府に含まれる内数 \*3 登録数は平成 25 年 12 月 31 日現在

図 1 搬入実績

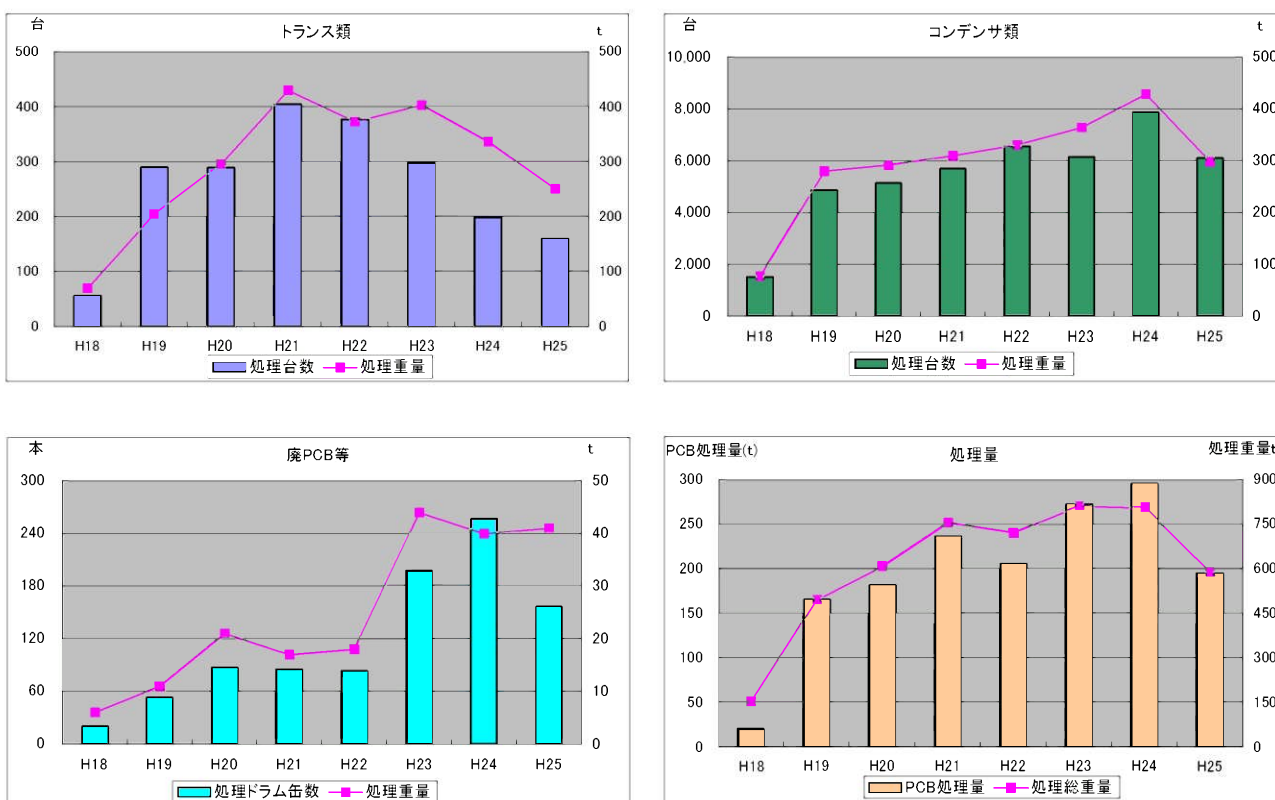


2) 中間処理完了実績 (D票ベース) (平成 18 年 10 月 3 日～平成 25 年 12 月末)

表-2 年度別の中間処理完了実績

種類等		年度									計
		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25 12月末迄		
トランス類	処理数(台)	56	290	289	404	376	297	199	159	2,070	
	処理重量(t)	70	205	296	430	373	403	336	250	2,363	
コンデンサ類	処理数(台)	1,513	4,862	5,136	5,692	6,557	6,152	7,873	6,105	43,890	
	処理重量(t)	77	280	292	310	331	365	429	298	2,382	
廃PCB等	処理ドラム缶(本)	20	53	87	85	83	197	256	156	937	
	処理重量(t)	6	11	21	17	18	44	40	41	198	
処理重量計(t)		153	496	609	757	722	812	805	589	4,943	
PCB処理量(t)		19.7	165.7	181.9	236.5	206.0	272.8	295.8	195.2	1,573.6	

図-2 中間処理完了グラフ



\*1 平成 18 年度は、10 月 3 日以降の実績データ

\*2 平成 25 年度は 12 月迄

### 3) 払出実績 (平成 18 年 10 月 3 日～平成 25 年 12 月末)

#### (1) 有価物・廃棄物

表－3 年度別の払出実績

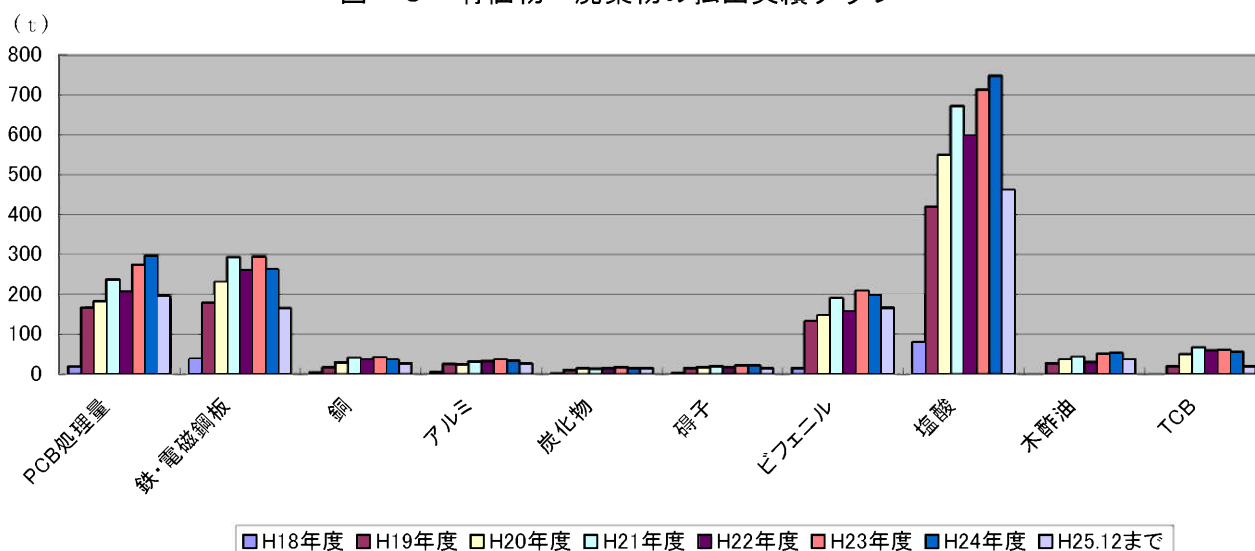
単位：t

種類 \ 年度		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25 12月迄	計
有 価 物	鉄・電磁鋼板	38.7	179.2	230.0	293.0	261.0	293.6	262.2	165.4	1723.1
	銅	3.8	16.6	29.9	40.3	36.9	41.6	36.2	26.9	232.2
	アルミ	4.8	25.8	24.0	32.3	33.2	36.0	33.5	26.2	215.8
廃 棄 物	炭化物	1.3	10.7	14.6	13.7	15.3	17.8	15.2	14.4	103.0
	碓子	2.5	15.6	17.7	20.0	17.3	21.4	21.8	14.6	130.9
	ビフェニル	15.0	132.5	146.6	190.4	156.8	208.4	197.2	155.4	1202.3
	塩酸	79.1	419.0	549.9	671.3	596.7	712.6	747.5	534.3	4310.4
	木酢油	0.0	27.6	36.2	42.6	30.4	50.4	52.7	36.7	276.6
	TCB	0.0	20.4	49.9	66.3	59.7	60.5	55.8	35.5	348.1

\*1 平成 18 年度は、10 月 3 日以降の実績データ

\*2 各数値につき小数点以下第 2 位で四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

図－3 有価物・廃棄物の払出実績グラフ



#### (2) 廃棄物の再資源化方法

表－4 払出している廃棄物の再資源化方法

廃棄物	再資源化方法
炭化物	銅精錬原料等として利用
碓子	再生砕石等として利用
ビフェニル	他の廃油等と混合の後セメントメーカーで燃料として利用
	他の廃油等と混合の後助燃油として利用
塩酸	飛灰、スラッジ、汚染土壌の金属抽出剤として利用
	污泥処理（中和）剤として利用
木酢油	高炉用ペレット製造又はセメント原料製造工程の原燃料
TCB	高炉用ペレット製造又はセメント原料製造工程の原燃料

#### 4) 運転廃棄物

平成 25 年 12 月末時点での運転廃棄物保管状況は以下のとおりです。

表—5 運転廃棄物保管状況

	現在保管数	倉庫保管 可能本数	年間 発生数	これまでの 年間処理数	年間 増加数
[固体状]	( 外部倉庫 * ・ その他 )				
換排気活性炭	1171本 ( 1,038本 ・ 133 )	} 3,000本	450本	(卒 200本	250本
保護具・シート類	1745本 ( 1,498本 ・ 247 )		350本		
小計	2916本 ( 2,536本 ・ 380 )	3,000本	800本	200本	600本
[液状]	( 倉庫 ** ・ その他 )				
粉末活性炭	1009本 ( 786本 ・ 223 )	① 792本	100本	(VTR 処理) 120本	100本
タール・木酢	342本 ( 0本 ・ 342 )		170本		50本
廃アルカリ	944本 ( 498本 ・ 446 )	② 576本	120本		120本
小計	2295本 ( 1,284本 ・ 1,011 )	1,368本	390本	120本	270本
その他	803本 ( 0本 ・ 803 )		80本		80本
合計	6014本 ( 3,820本 ・ 2,194 )	4,368本	1,270本	320本	950本

\* 外部倉庫： 舞洲内で借り受けた倉庫 (3,000) (前年度までは4,000本としていたが地震等を考慮して3,000本とした。)

\*\* 倉庫： ①東屋外倉庫(792)  
②西ドラム缶倉庫216、東ドラム缶倉庫180、西処理困難物倉庫180、の計 (576)  
いずれも塗床・活性炭セーフティネットがある倉庫である。

- 操業に伴い発生する運転廃棄物は、換排気用活性炭、保護具・シート類、粉末活性炭、タール・木酢、廃アルカリ、その他の種類毎にドラム缶に封入し、6,014本を保管しています。
- 運転廃棄物の処理方針は、5,000ppm以下のものを無害化処理認定施設の活用を図り、J E S C O施設でしか処理できない5,000ppmを超えるものを最小化する方法を検討します。
- 換排気用活性炭や保護具・シート類の分析の結果、卒業しているものは年間約200本を産業廃棄物として処理委託しています。卒業していないものは舞洲内に倉庫を借り、平成23年8月から保管を開始し、2,536本を保管しています。この倉庫は、あと1年足らずしか保管量の余裕がありませんので、26年度に換排気用活性炭1,000本を無害化処理認定施設に焼却処理委託を予定しています。
- 粉末活性炭については、V T R処理すると粉末が炉内に飛散したり、オイルシャワー回収油中に混入するなど操業に支障を来し、本来処理すべきトランス・コンデンサの処理に多大な遅れを生じることが想定されました。したがってV T Rによる自所処理を一時見合わせ、東屋外倉庫に保管してきました。  
対策として、平成23年12月に東京事業所で水熱酸化分解設備による処理試験を実施し、一部は処理可能であるとの結果が得られました。  
しかしながら、東京事業所で処理したとしても、その全量処理は難しい状況のため、一部について、平成26年度からの自所処理に向け問題解決に取り組んでまいります。
- タール・木酢については、5,000ppm超となるものを自所で年間約120本のV T R処理(30バッチ)を進めていますが、これ以上保管量を増やさないよう努めます。26年度から100本を無害化処理認定施設に委託処理を考えています。
- 廃アルカリについては、表—5の他に5,000ppm以下のものは、無害化処理認定施設での処理を進めており、25年3月から12月までに130本を委託処理しました。引き続き25年度中には、あと120本を委託処理する予定です。26年度中には、約300本の処理を予定しています。
- その他とは、キムタオル、配管材、廃油等ですが、そのうち廃油(低沸油)についても平成26年度から100本を無害化処理認定施設へ委託処理する予定です。  
キムタオル、配管材等は当面、保管を継続します。
- 換排気活性炭、保護具・シート類は、ほとんどが5,000ppm以下で、粉末活性炭は全て5,000ppm超であり、タール・木酢、廃アルカリは両方有ります。
- 大阪事業の処理完了までに発生すると想定されるドラム缶の総数は12,400本。その内、5,000ppm以下で無害化認定施設に委託処理するものは9,600本。5,000ppm超で大阪事業所で処理するものは1,800本、他事業所に委託処理するものは1,000本となっています。大阪事業所で処理するものは、計画的に自所処理(V T R処理)を平成26年度から開始します。

このため、今後は、保管事業者から処理を受託したPCB廃棄物（トランス・コンデンサ）のVTRによる年間処理量が大幅に減少しますが、期限内に処理をする計画です。

## 5) 視察・見学状況

平成18年10月に見学受入を開始して以来、平成25年12月末現在で延べ1,228団体、9,166人の方が視察・見学されました。視察・見学者の内訳は、地元市民をはじめ企業関係（PCB廃棄物保管事業者を含む）、環境団体・協会、行政関係となっています。

表-6 視察・見学者数 (名)

年度	総数	企業関係	環境・協会	一般関係	行政関係	学校・研修	自由見学	海外	委員会等*1
平成18年度	2,129	793	767	113	282	62	55	34	23
平成19年度	3,333	1,511	996	527	148	44	40	45	22
平成20年度	1,100	316	430	13	168	52	91	30	0
平成21年度	650	237	170	19	79	64	51	17	13
平成22年度	624	152	202	34	87	101	26	12	10
平成23年度	482	231	34	2	128	23	36	11	17
平成24年度	501	176	104	1	75	60	31	9	45
平成25年4~12月	347	183	58	1	87	6	12	0	0
合計	9,166	3,599	2,761	710	1054	412	342	158	130

\*1 民間・議会等の各種団体（委員会、協議会）

## 6) 保管事業者説明会の開催

PCB廃棄物の円滑な処理を進めるため、平成25年1月からは近畿2府4県の保管事業者に対して、5巡目の説明会を行い平成25年11月に終了しました。また、平成26年2月からは6巡目の説明会に入っています。

今後も受入にあたり保管事業者の方への説明会を開催するなど、PCB廃棄物の早期処理完了に向けて取り組みます。

表-7 近畿2府4県（大阪市を除く）保管事業者説明会の実施状況

	年月日	説明会		出席者数
1巡目	平成20年7月～平成21年11月	2府4県	33回	915 事業者
2巡目	平成21年11月～平成22年11月	2府4県	30回	1192 事業者
3巡目	平成23年1月～平成23年10月	2府4県	27回	605 事業者
4巡目	平成24年1月～平成25年1月	2府4県	22回	542 事業者
5巡目	平成25年1月～4月	大阪府	5回	193 事業者
	4月、5月	京都府	3回	128 事業者
	4月～7月	滋賀県	2回	36 事業者
	7月	奈良県	1回	34 事業者
	8月～10月	兵庫県	6回	205 事業者
	和歌山県は4巡目で併せて実施済み	和歌山県	0回	0 事業者

## 7) 収集運搬について

大阪事業所への入門許可を取得している収集運搬事業者は、平成25年12月末現在で23事業者となっています。今後もPCB廃棄物の取扱いの指導を行い、収集運搬の安全性の向上に努めてまいります。

収集運搬業者一覧表を表-8に示します。